

26年11月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 10月20日～ 26年11月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/11月	26/12月	27/1月
入荷動向	国産材製材品	0.0	△ 12.5	△ 25.0
	外材製材品	△ 6.3	△ 18.8	△ 37.5
	その他	0.0	0.0	0.0
販売動向	国産材製材品	△ 18.8	△ 12.5	△ 18.8
	外材製材品	△ 12.5	△ 6.3	△ 6.3
	その他	△ 7.1	△ 7.1	△ 85.7
在庫動向	国産材製材品	14.3	0.0	0.0
	外材製材品	75.0	△ 18.8	△ 12.5
	その他	0.0	0.0	0.0

・国産材製材品の入荷は11月の横ばいから、12月、27年1月は減少、外材は3ヵ月連続して減少、その他は3ヵ月連続して横ばいで推移。

・製材品の販売はどの品目とも3ヵ月連続して減少。

・国産材製材品の在庫は11月の増加が、12月、27年1月は横ばいに、外材は11月の大きな増加から12月、27年1月は減少に、その他は3ヵ月連続して横ばい。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		26/11月	26/12月	27/1月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 12.5	0.0	△ 6.3
	柱角 KD12×3	△ 12.5	0.0	△ 6.3
	通し柱 12×6	8.3	△ 8.3	0.0
	桁角	△ 6.3	0.0	△ 6.3
	母屋角	0.0	0.0	△ 6.3
	タルキ	△ 6.3	△ 6.3	△ 6.3
	間柱	△ 6.3	△ 6.3	△ 6.3
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	△ 6.3	0.0	0.0
	平割	△ 6.3	△ 6.3	△ 6.3
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 37.5	△ 18.8	△ 18.8
	柱角 KD12×3	△ 37.5	△ 18.8	△ 21.4
	土台角 10.5×4	△ 25.0	△ 25.0	△ 18.8
	土台角 12×4	△ 25.0	△ 25.0	△ 18.8
	通し柱 12×6	0.0	△ 8.3	0.0
カマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	12.5	25.0	18.8	
米マツ割物	14.3	28.6	21.4	
北洋エゾマツタルキ	16.7	33.3	33.3	
北洋アカマツタルキ	14.3	14.3	7.1	

・スギ製材品の価格は11月の通し柱がやや強保合である以外は総じてやや弱保合ないし一部保合。

・ヒノキは総じてやや弱含みから弱保合に。

・米マツは総じて保合から強保合に。

・北洋エゾマツタルキは強保合。

・北洋アカマツタルキはやや強保合で推移。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・スギ製品は、原木不足で入荷厳しく、反面、販売では回復が見られない。
- ・ヒノキ、スギの入荷は順調。外材製品は全般的に多くなく、一部間柱 (W/W) 製品は入荷減により品薄材が増加。ヒノキ、スギの役物は、需要減少で売りにくい。一般材も安値で推移。外材製品は港湾在庫の減少と急激な為替変動による先高感から売やすい。国産材の在庫は元落などもあり、増加傾向に、外材は入荷減少により在庫は減少傾向。
- ・東北材の11月入荷は変わらず、12月から雪の影響で減少する。W/W間柱、アカマツ3mタルキの入荷少ない。スギ、ヒノキ売上げ減少、W/W, アカマツ動き悪い。国産材在庫は防音工事なくスギ羽柄増加、外材は10月分在庫が残り増加。
- ・全体的に荷動きが悪い。
- ・国産材原木は出材回復も需要がなく、入荷調整の面も。秋需も思った程なく、11月以降も新築住宅は厳しい状況とか。冬場となり例年出材は減るも、需給バランス取れて在庫は横ばい。

(価格動向)

- ・スギGRN材は横ばい、KD構造は、市況により弱含み。ヒノキは全般に値上げ要請あるが市況は弱く上昇は見込めない。
- ・スギ構造材は、一部PC工場稼働率UPに伴い荷動きは出てきているが、相場は下落傾向が続いている。スギ羽柄材は、供給過多のため弱含みで推移。ヒノキ構造材は相変わらず荷動き不振。米マツは為替の急激な変動と港湾在庫減少により強含みで推移しそう。北洋材製品は、少しずつ減少しているが、一部人気メーカー品より値戻しがありそう。
- ・スギ柱角 (KD10.5cm、12.0cm) 60,000円/m³、スギ桁角、母屋角東北材グリーン40,000円/m³、スギタルキ東北材グリーン45,000円/m³、スギ間柱KD66,000円/m³、スギ加工板グリーン材束2,800円、KD束3,800円、スギヌキ東北40,000円/m³、秋田50,000円/m³、スギ平割プレーナー38,000円/m³ラフ38,000円/m³、ヒノキ柱角・土台角KD価格85,000円/m³、米マツ平角68,000円/m³、米マツ割物65,000円/m³、北洋アカマツタルキS64,000円/m³、P55,000円/m³。